

# みんなのた場



## 河北地区・小船越舟形

伊勢崎

瑠依さん(10歳大谷地小学校5年)  
莉生君(9歳大谷地小学校4年)  
香音さん(6歳大谷地小学校1年)

特殊照明製造会社に勤務する伊勢崎利文さん方は6人家族。1男2女の子どもたちと妻由香さん、母和子さんの3世代が、深緑の山と田園地帯が目の前に広がる自然豊かな場所に建つ自宅で、楽しく暮らしています。

## 毎日元気に自転車通学



3人きょうだいの長女瑠依さんはしっかりした性格で、勉強は漢字が得意。1年生から漢字検定に挑戦し、4年生で6級を取得しました。長男の莉生君は、少しやんちゃな面もありますが、旅先などでは、初めて会った結果は、将来きつと役に立つはずです」と期待します。自身が小学4年生から高校3年まで野球に打ち込んで身に付けた礼儀や人とのつながりが、これまでの人生の糧となった体験に基づくだけに重みがあります。

た知らない人とすぐに仲良しになって家族を驚かすほど、コミュニケーション能力に優れています。

次女の香音さんは、少し甘えん坊ですが、3月まで通っていた幼稚園では年少の子どもたちともよく遊び、慕われていました。

3人が在籍する大谷地小学校には毎日、自転車で通学します。4月に入学したばかりの香音さんも、入学前から一生懸命に乗り方を練習し、瑠依さん、莉生君を含む地区の子どもたちと一緒に、約2キロ離れた学校まで集団登校しています。

将来の夢については3人とも「まだ分からない」と模索中ですが、利文さんは「自分なりの目標を見つけ、その実現に向かって一生懸命に頑張ってほしい。努力した結果は、将来きつと役に立つはずです」と期待します。

たまに激しいけんかもありますが、それだけ仲の良い証拠。自宅ではいつも騒がしい3人ですが、友達のお母さんや学校の先生たちからは「小さい子の面倒をよく見てくれて、頼りがいがあります」と言われます」と語る由香さん。それぞれの個性や良い面を生かしながら元気に成長する姿を、温かく見守っています。

たまたまに激しいけんかもありますが、それだけ仲の良い証拠。自宅ではいつも騒がしい3人ですが、友達のお母さんや学校の先生たちからは「小さい子の面倒をよく見てくれて、頼りがいがあります」と言われます」と語る由香さん。それぞれの個性や良い面を生かしながら元気に成長する姿を、温かく見守っています。

## 石巻市立桜坂高等学校

# 桜坂だより

第12号

こんにちは、桜坂高校です！  
私たちは総合的な学習(探求)時間「桜坂タイム」の地域理解・就業体験として毎年皆さんの地域や職場にお世話になっています。



1年生は「まちなかポスタープロジェクト」を通して地域理解に取り組みます。



2年生は「さくらプロジェクト」で、地元の各企業で就業体験をさせていただいています。



## キラッとパチリ



石巻市消防団長  
くぼた かつゆき 勝幸さん(61)

### 団員の増員に力注ぐ

4月1日付で石巻市消防団長に就任しました。昭和55年に河南町消防団に入団し、分団長、副団長などを経て、平成26年から6年間、市消防団河南地区団長を務めました。

東日本大震災では、河南地区内の避難所や断水家庭への給水活動などに奔走しました。携帯電話が通じない中、団の車両に装備してい

た無線で河南総合支所と連絡を取りながら的確に活動でき、災害時の情報共有の大切さを痛感しました。

市消防団には約1700人の団員がいますが、震災の被災地などを中心に団員が減り続けています。「消防団は地域防災の要」という意識を高めてより多くの方に入団してもらえよう、行政や企業関係者、地域の皆さんの理解と協力を得ながら、増員に取り組みます。

## 食育推進



石巻市食育推進キャラクター「いしのまき隊」

## 《食生活改善推進員連絡協議会石巻分会》

### 「野菜たっぷりベトナム料理に挑戦！」



食育の推進と会員の交流を図るため、地産地消研修会を実施しています。

今回は、ベトナム料理に挑戦し、揚げ春巻きや酢の物などを作りました。地元の新鮮な野菜をたっぷり使い、和食とは違う味わいをみんなで楽しむことができました。

健康推進課(内線2617)

# 北上 十三浜ワカメの安定生産目指す

青年研究会が人工採苗に挑戦



北上地区で2月～4月末ごろに収穫される「十三浜ワカメ」の安定生産とブランド価値向上を目指し、県漁協北上町十三浜支所青年研究会(遠藤貴彦会長)の20～40代の若手漁業者14人が、地元産ワカメから自前の種を採取する人工採苗に挑戦しています。

## Topic of town まちの話題



同地区ではこれまでも自種でのワカメ養殖を模索してきましたが、技術不足などで定着せず、県内外の業者から種を購入してワカメ養殖を続けています。しかし、種業者の高齢化が進んで、将来の供給量減少が心配されるため、同研究会は、平成30年度から県水産技術総合センターの支援を受けて人工採苗に取り組み始めました。

2年目の令和元年度は、東日本大震災の復興支援としてNTTドコモから寄付された500万円で購入した顕微鏡や採苗用タンクなどを購入し、機材が充実しました。遠藤会長は「まだまだ勉強段階ですが、手応えはあります。肉厚で歯応えが自慢の十三浜ワカメの種を、将来は他産地にも提供できるよう頑張ります」と張り切っています。

# エスディーゼズ SDGsで未来を変えよう!



SDGs地域戦略推進室(内線4223)

より良い未来のために



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<b>1</b> 貧困をなくそう	<b>2</b> 飢餓をゼロに	<b>3</b> すべての人に健康と福祉を	<b>4</b> 質の高い教育をみんなに	<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう	<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に
<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<b>8</b> 働きがいも経済成長も	<b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう	<b>10</b> 人や国の不平等をなくそう	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを	<b>12</b> つくる責任 つかう責任
<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう	<b>15</b> 陸の豊かさも守ろう	<b>16</b> 平和と公正をすべての人に	<b>17</b> パートナリシップで目標を達成しよう	

### SDGsってなに?

SDGs(エスディーゼズ)は、Sustainable(サステイナブル) Development(ディベロップメント) Goals(ゴールズ)の略で、日本語訳は「持続可能な開発目標」です。

2015年(平成27年)9月の国連サミットで193カ国の加盟国が全会一致で採択した、2030年までの開発目標で、17の目標などで構成されています。

誰一人取り残さないをスローガンに、現在も、そして子どもや孫の世代も、豊かな暮らしができ、発展していけるような社会を実現するために、世界全体で取り組んでいく目標です。

### なぜSDGs?

地球では、温暖化をはじめ、さまざまな環境問題が深刻化しています。

大量生産と大量消費を繰り返し、利便性や快適性だけを求め続けていたら、未来はどうなるでしょう。日本を含む先進国のこれまでの経済成長は、公害や自然環境の破壊を引き起こし、このままいくと経済的にも環境的にも破綻してしまうと言われています。

また、世界では、極度の貧困や飢餓など、さまざまな問題を抱えている人々があり、生活水準の向上などが急務となっています。

このような課題を解決し、持続可能な社会を築くためには、みんなでこの世界を変えていく必要があるのです。

### 誰が取り組むの?

私たち一人一人、全ての人が主役です!

SDGsは、世界規模の社会変革に向けた目標で、なかなか身近に感じられないかもしれません。

しかし、SDGsは市民・企業・行政などがそれぞれに取り組んでいても達成できません。それぞれが17の目標を意識して、連携して取り組むことで、未来を変えることができるのです。

みんなでSDGsを「自分のこと」として捉え、普段の生活の中から取り組んでみましょう!

## みんなではじめよう! SDGs!

一人一人の小さな行動が、未来を変える大きな動きにつながります。SDGs達成のためにできることを考え、取り組んでみましょう!

**マイボトルを使う**

マイバッグやマイボトルの使用は、プラスチックごみの削減につながります。小さな心がけが、豊かな海を守ります。

**食べ残しをなくす**

必要な量だけ買う、注文するなどにより食品ロスをなくすことで、資源の有効活用と持続可能な消費と生産につながります。

**マイカー利用を控える**

マイカーの利用を控え、公共交通機関の利用や歩くことで、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を抑制できます。

来月号から、17の目標ごとに、それぞれの内容などについてご紹介します。